

## 対話型鑑賞とは

船橋市民ギャラリー 6. 4. 1HP 掲載

1980年代にニューヨーク近代美術館 MoMA で開発され多くの美術館で実践されている人気の教育プログラム。それが日本に導入されて様々な形に変容しながら「対話型鑑賞」という呼称のもと、各地の美術館、学校教育機関等で実践されつつあるというのが現状です。

作品についての情報や解釈を専門家や教師が一方向的に伝えるのではなく、鑑賞者自身の思いを尊重し、グループでの対話を通して作品を味わっていく鑑賞法。VTC(ビジュアル・シンキング・カリキュラム)。その後、VTS(ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ)として学校教育を軸とした鑑賞教育に発展しています。

●VTCとVTS (Cはカリキュラム・Sは戦略、または、総合的で大規模な計画内容を指し、目的を達成するための周到な計画や学問、知識などを含んだ戦法や方針などを指す言葉です。) VTCからVTSに進む。

進行役(ファシリテーターと言います)が鑑賞者(子供たち)にする質問は下記の3つに限定されています。(基本)

1. この絵の中で、どんなことが起こっていますか？  
(What's going on in this picture?)
2. あなたは、何を見てそう言っているのですか？  
(What do you see that makes you say that?)
3. もっと発見はありますか？ (What more can we find?)

### ●対話型鑑賞教育の方法

アートカードを使って、美術作品を使ってみて、考えて、対話しながら鑑賞します

### ●対話型鑑賞教育の効果

- ・ 作品を知る → 作品をみる . . . 鑑賞法の転換  
美術作品に向き合う態度の転換
- ・ 鑑賞力、鑑賞の楽しさ
- ・ 観察力、批判的思考力、言語能力、コミュニケーション能力
- ・ みる、考える、話す、聴く
- ・ 自ら問い、考え続ける力
- ・ 学ぶ力、学ぶ意欲 「主体的・対話的で深い学び」

## (これまでの主な取り組み)

令和3年12月に現代美術家／水墨画家である荒井恵子氏の展覧会を開催しました。会期中に来館した小学校6年生が、水墨画の体験と対話型鑑賞を行う図画工作科の授業を実施しました。はじめに、学芸員から水墨画の技法のうち4つの技法を学びます。動画を見ながら、「水の上 に墨」「濃淡」「にじみ」「かすれ」を練習しました。次に、展示室で荒井氏の作品を前に対話型鑑賞を行います。対話型鑑賞とは、学芸員や教員 から作品についての知識や情報などを一方的に聞くのではなく、児童生徒が主体的に「みる」「かんがえる」「はなす」「きく」「はっけんする」をキーワードに、描かれたものから作品 の意味を探るグループワークです。

美術鑑賞の方法を学ぶことができる鑑賞法として最近注目 されています。2班に分かれて学芸員と一緒に対話型鑑賞を行い、その後、自由に見学をしました。早速、友達と対話をしながら鑑賞する姿が見られました。作品鑑賞の後、自分の「今の気持ち」を水墨画で表現しました。短い時間でしたが、子供たちはそれぞれの思いを水墨画で個性的に表現し、素敵な作品が出来上がりました。※船橋市の「対話型鑑賞教育の始まり」

令和5年度実施した10校（薬円台小・薬円台南小・船橋小・海神小・湊町小・海神南小・二和小・八木が谷小・高根東小・飯山満南小）においては、児童が落ち着いて自分の考えを伝え合うことによって、主体的に学んでいく場面が多くみられました。

## (対話型鑑賞授業実施計画)

R4 実施校 船橋小 11/29・海神小 11/30・湊町小 11/28

R5 実施校 **※市内小学校5年生を対象に実施計画**

6月 薬円台小・薬円台南小

11月 船橋小・海神小・湊町小

1月 海神南小・二和小・八木が谷小・高根東小・飯山満南小

R6 小学校25校と特別支援学校小学部実施予定

※予定日等はR6年度日程参照

R7 市内小学校全55校と特別支援学校小学部実施予定

※今年度も、ファシリテーター養成講座と対話型鑑賞教室を並行して実施していく。

(養成講座の中に、11月実施の三校を計画)

※R4年度養成講座一期生は17名。R5年度の二期生は24名養成。

R6とR7 各年20名ほど募集予定。

## 授業の様子



※二和小・八木が谷小・高根東小・飯山満南小・海神南小から  
新しい「ふなばしアートカード」を使用しています。



## 「ふなばしアートカード」R5.12月完成

アートカードは鑑賞学習のための教材です。「見る、考える」だけでなく「話す、聞く」という言語活動も取り入れて、楽しく鑑賞の基本を身につけます。

絵画・彫刻・版画・写真・工芸・デザインまで幅広いジャンルにわたる、他にはない充実した内容です。



船橋市における「対話型鑑賞教育推進事業」において使用しているアートカードは、船橋市の所蔵作品から船橋ゆかりの作家の作品や名画など44点を「ふなばしアートカード」として作成した船橋市オリジナルの美術教材です。(A版とB版各22枚)

授業では、A版とB版を使い分けます。(複数回使用の際、飽きがこない様に)実施校に順次配付し、図書室に配架します。(※5年生学級数×8配付)

: A版 22枚



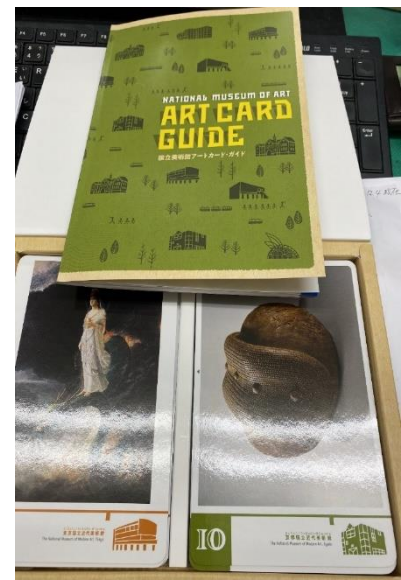
: B版 22枚



※ケース (小冊子)



国立博物館  
アートカード



## ふなばしアートカードについて

「ふなばしアートカード」は船橋市所蔵作品から船橋ゆかりの作家の作品や名画など 44 点をポストカードの大きさのカードにした船橋市オリジナルの美術教材です。カードを使ったアクティビティの中で、作品を「見る、考える、話す、聞く」活動を通し、美術鑑賞の基本を学ぶことができます。

船橋市では対話型鑑賞教育推進事業として、市内の小学 5 年生を対象に図工の授業でアートカードを使った対話型鑑賞教室を実施しています。

**(※学校行事等を考慮して、5 年生を対象。将来的には、全学年実施を目指し、アートカードを含む教材教具の工夫改善や授業内容と方法も検討)**

これらのアートカードを使ったアクティビティを通じて楽しく美術鑑賞の基礎を学びます。また、鑑賞教室を運営するために、事前にファシリテーターの養成研修を船橋市民ギャラリーにおいて実施しております。

授業では、3～4名の児童のグループに1名のファシリテーターが入り、児童の考えを引き出し、言葉にすることを手助けしています。このような活動を通して、子供たちが地域の文化や歴史に親しみ、文化芸術を鑑賞する力を育むことを目標としています。

## 船橋市所蔵作品について

船橋市所蔵作品は船橋市が所蔵する美術作品のコレクションです。これらは清川記念館と清川家から寄贈された美術作品 184 点（清川コレクション）が中心となっており、そのほか地域で活躍した芸術家や収集家より寄贈を受けた作品をあわせて、約 650 点の美術品で構成されています。その特徴は以下の 3 点です。

- ①清川コレクション及びその代表的な作家である椿貞雄の作品、関連 資料群
- ②船橋ゆかりの芸術家による作品
- ③船橋ゆかりの収集家による美術コレクション

明治時代から現代にいたる船橋で生まれた美術作品が多く含まれている船橋市所蔵作品は、郷土の文化芸術を始め、その歴史や人々の暮らしを今に伝えるものになります。

## ふなばしアートカードの使用方法

44 枚のカードはカードの色で二つのグループに分かれています（小冊子には Group A と Group B と表記しています）。すべてのカードを使っても、半分の 22 枚を使っても活動は可能です。参加する人数とスペースに応じてカードの枚数を選んで使用します。カードはグループごとにそれぞれ「風景」「人物」「静物」「抽象」という 4 つの項目で分類されており、それぞれバランスよく作品が取り揃えられています。

小冊子に遊び方（アクティビティ）の説明が掲載されています。